昭和63年度厚生省心身障害研究
「母子保健システムの充実・改善に関する研究」

高年初産婦調査研究事業

橋本勢津*，加藤仲二**

要約：　近年、結婚年齢の上昇、女性の社会進出及び雇用の場の拡大などにより、30歳以上の高年出産が増加している。

高年の妊娠では、切迫流産や妊娠中毒症などの異常妊娠の頻度が高く、また胎児奇形や染色体異常児の発生頻度も高くなる傾向がある。特に高年初産は難産になる可能性が高く、胎児仮死や帝王切開の頻度も高いと指摘されているところである。

岩手県では、このようなハイリスク因子を持つ可能性のある高年初産に係る妊婦健診を行い、更に、この健診結果を基本にして、高年初産に対する適切な指導・管理を行うための調査研究を実施し、母体の保護並びに胎児及び新生児の健全な育成を図ろうとしている。

見出し語：高年初産、ハイリスク因子、調査研究、指導管理

研究方法：

1　研究期間

(1)　高年初産婦健康診査……… 昭和63年10月1日～平成2年9月30日

(2)　高年初産婦調査・研究 …. 昭和63年10月1日～平成3年3月31日

2　対象者

県内居住者で、上記(1)の期間中に出産予定であり、かつ、その予定日に満30歳以上となる妊娠中期(16 週～23週) の初産婦。

3　実施機関

(社) 岩手県医師会に委託して実施する。

なお、健康診査については、県内で産婦人科を標榜する全医療機関で実施する。

4　診査及び調査の内容

（１）既往歴、妊娠経過、妊娠合併症、妊婦一般健診の結果、超音波所見

（２）分娩経過、産科処置、新生児所見及びその経過

5　実施方法

(1)　高年初産婦健康診査

（社）岩手県医師会から医療機関に予め受診券を配布し、医療機関では、健診対象妊婦に対し健康診査を実施し、その健診結果を調査票に記入して、月ごとに（社）岩手県医師会に送付する。

(2)　高年初産婦調査・研究

（社）岩手県医師会では、(1)を集約し、医師により構成される研究委員会及び部会において、その結果について調査・研究を行う。

調査・研究の目標：

(1)　高年初産に関するハイリスク要因の実態把握

(2)　高年初産に対する適切な指導管理を行うための指導指針の策定

(3)　高年初産による早産、死産、帝王切開の未然予防についての研究

(4)　高年初産による未熟児、障害児、先天異常児の出現抑制についての研究

(5)　その他(1)〜(4)に関連する研究

結果公表：調査、研究の結果は事業完了予定の平成３年３月３１日までに報告書として公表する予定である。

＊　岩手県宮古保健所　　　＊＊岩手県環境保健部保健予防課

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:近年、結婚年齢の上昇、女性の社会進出及び雇用の場の拡大などにより、30 歳以上の高年出産が増加している。
高年の妊娠では、切迫流産や妊娠中毒症などの異常妊娠の頻度が高く、また胎児奇形や染色体異常児の発生頻度も高くなる傾向がある。特に高年初産は難産になる可能性が高く、胎児仮死や帝王切開の頻度も高いと指摘されているところである。
岩手県では、このようなハイリスク因子を持つ可能性のある高年初産に係る妊婦健診を行い、更に、この健診結果を基本にして、高年初産に対する適切な指導・管理を行うための調査研究を実施し、母体の保護並びに胎児及び新生児の健全な育成を図ろうとしている。